



天上はるかに

秋田高校東京同窓会会報

2015年1月31日(土)

大学生との交流会 新春賀詞交歓会

13:00 ~

16:30 ~

昨年母校140周年、本年秋高同窓会創立100周年。長い歴史、その歩みの節目節目に覚える感慨はひとしおのもの。それはまた次の節目へと向ける歩みへの、大きな礎ともなる。

同窓会活動……、その意義や理由を100も200もあげてみたところでかなわない一つがある。それは「同窓会は面白い」だ。これに理屈はない。個々が感じ取るべきものだから。

さて、次の節目に向けての一步を記すべく新年、恒例の「大学生との交流会」「新春賀詞交歓会」を開催いたします。

ぜひご参加いただき、改めて、あるいは初めてでも、「同窓会は面白い」を実感していただくことができれば幸いに存じます。

大いに同窓会を楽しみましょう。

※ 2015年の担当年度幹事は「5」のつく卒年の S 15、25、35、45、55、H 5、15 卒です。参加を特によろしく。

<講演者紹介>

あきた舞妓 仕掛人……

株式会社 せん 社長
水野 千夏 さん
秋高 H19年 卒



平成23年神奈川大学を卒業。都内の化粧品会社を経てUターン。秋田市内の県産品販売会社で一時働く傍ら、新ビジネスを模索。一昨年初に着目したのが川反芸者だった。本年4月「会える秋田美人」をコンセプトに、舞妓の育成・派遣を主事業とする会社、(株)せんを設立。8月には第1期生となる3人の舞妓をお披露目。現在、県内外で大きな話題を集めている。



▲ あきた舞妓 お披露目会の様子 ▲
あきた舞妓の詳細は
<http://akitamaiko.com/> でどうぞ

開催要項

- 会 場 …………… アルカディア市ヶ谷(私学会館) >
- 受 付 …………… 12:30 ~
- 大学生との交流会 …… 13:00 ~ 16:30
- 講 演(水野千夏さん)… 16:30 ~ 17:20
- 賀詞交歓会 …………… 17:30 ~ 20:00

◆ 会 費 ・8,000円 ・学生=4,000円

JR・地下鉄
市ヶ谷駅より
徒歩2分



東京都千代田区九段北4-2-25 TEL 03-3261-9921

橋本五郎の

AKITA 元気トーク



秋田高校東京同窓会 会長
橋本 五郎

「心」なき地方創生を憂う

安倍改造内閣の発足にあたって「地方創生担当大臣」を新たに設け、地方活性化に本格的に取り組もうとしている。私はかねてから、安倍内閣の最大の問題は、地方に対する愛情が乏しいことだと力説してきた。東京生まれで東京育ちの政治家が多くなっているからだと言え口もたいてきた。

それがようやく、内閣の目玉政策になったのだから、それ自体歓迎すべきことかもしれないが、どうも動機に問題がある。地方創生を前面に出してきたのは、一つは2040年には日本の自治体の半数が消滅するという衝撃的な「増田レポート」に驚いてであり、もう一つは来年春に統一地方選挙があるため、地方のことも考えていることを示すための選挙対策の色彩が濃いのである。動機の不純さが否めないのである。

ここは厳しく監視していかなければならない。統一地方選前に予算をつけ、選挙が終われば「はい、おしまい」ということになりかねないのだ。国としてどういう日本にすべきなのかというグランドデザインを示し、地方の自主的な創意工夫と調和させながら、中長期的に進めていくことが大事になる。この場合、何よりも問われるのは、地方の再生無くして日本の再生はあり得ない本当に思っているのかということである。「ふるさと」を大事にする気持ちがあるのかどうかなのである。

2014年11月
錦秋号

秋田高校東京同窓会

〒106-0032
東京都港区六本木 5-16-5
インベリアル六本木 1001
鎌田会計事務所内

TEL 03-5545-7775
FAX 03-5545-0087

<http://www.shuko-ob.net/>

● 平成26年度 定期総会・記念講演・懇親会 報告



平成26年度の秋高東京同窓会定期総会・記念講演・懇親会は、6月28日、当初の予定を上回る95名の同窓の皆様の出席で開催されました。

- ・ 総 会 今野仁副幹事長(S50)による開会の言葉で開会。橋本五郎東京同窓会会長(S40)の挨拶に続き、議題の事業報告・事業計画案、会計報告・予算案、監査報告がなされ、出席者の承認を得て、総会はつつがなく終了しました。
- ・ 本部報告 町田睿本部同窓会会長(S31)、伊藤成年秋田高校校長(S49)、佐藤英明本部同窓会事務局長(S46)の順に、同窓会本部並びに母校の近況等についてご報告いただきました。
- ・ 記念講演 「私と秋高そして今、文化を考える」を演題とする、昭和43年卒の銭谷眞美さん(東京国立博物館長・元文科省事務次官)の講演、大変楽しく拝聴しました。
- ・ 懇 親 会 佐藤恵さん(S56)の司会で乾杯から歓談へと進み、秋田出身の飲み助達のメーターは上がる一方……会場は大いに盛り上がりました。
ラストは特別幹事・大本香津子さん(S31)の音頭で校歌“天上はるかに”を全員で斉唱。
尾形均副会長(S44)の閉会の言葉で、平成26年度の定期総会・記念講演・懇親会は閉会となりました。



平成26年6月28日／於：ハイアットリージェンシー東京



● 寄稿

工藤 成仁 H23卒

はじめまして。秋田大学教育文化学部の工藤成仁です。

今年一年休学して、全国の国立大学をまわって先生や学生と話し合ったりしながら、日本一周を目指して自転車で全国を走り回っています。その途中で秋田高校東京同窓会が開催されることを知り、出席させて頂きました。

大学生の目線での感想ですが、若い人がもっと増えて欲しいなと思いました。私の代は一人だけ。それどころか二十代は私だけだったようです。

今色んな問題と戦っている方達はとても忙しいこととは思いますが、ぜひ私達の3歩程先を歩く先輩の話が聞きたいです。

私が今やっていることは高校時代には全く考えていませんでした。社会へ出た先輩方も、大学時代に考えていたことはまた違うことをされていることでしょう。

先を行く人、今歩いている人、後に通ることになる人、世代や分野を越えて話すような場になればいいなと思いました。懇談会だけでなく座談会もいいかもしれません。

同級生は色んな大学へ散らばっていますが、大学ではなく高校の友達が一番深い話ができるという話も聞きました。

もっと様々な世代の卒業生が出席して、「秋田高校の先輩」の高校のその先の話が聞ける機会になればと思います。

学校生活の中だけでは関わることのない世界の一端を知ることができてよかったです。

水野 千夏 H19卒

今回、卒業してから7年が経ちますが、初めて秋田高校東京同窓会に参加させて頂きました。まずは今回このような貴重な会にご参加させて頂いたことに御礼申し上げます。

今年日本記者クラブ賞を受賞された橋本五郎先輩、そして記念講演をいただいた銭谷眞美先輩をはじめとする、素晴らしい大先輩と一緒にさせて頂き、改めて秋田高校の強みというものを実感させられました。

私は今年の4月秋田美人の産業化を図るため、秋田の新たな観光資源の確立を目的とした「会える秋田美人・あきた舞妓」の事業を立ち上げました。秋田にとってはネガティブなニュースが多く流れる中、ただ傍観者になるのではなく、少しでも「秋田の未来」の為になることを！と強く想い、その逆行に立ち向かうことを決意しました。ただ、この決意には同級生の存在がとても影響しています。成績が優秀だけではなく、人の為に今でもなお勉学に励んでいる同級生を見ては、いつも私にはこの社会において何ができるのかと考えさせられる場面がとても多くありました。

私が今こうしてひとつの事業を起こすことが出来たのは、「秋田高校」という存在が大きいと自分でも感じています。

今回は同級生とはまた違う、沢山の先輩方から本当に沢山の刺激を受けることができ、今まで以上に精進していく所存です。

今後も同窓会へは積極的に参加し、先輩方から多くの教養、知見を学びたいと思います。

柳澤 奉享 H8卒

今回総会に2年ぶりに参加させて頂きました。

そもそも東京同窓会に入るきっかけは、今から7、8年前のことだったと記憶しています。

卒業10周年記念として秋田で開催された同窓会に参加した際、当時の同窓会本部の事務局長さんに勧められ、成り行き(?)で東京同窓会に入会しました。

当時、私は独身で時間的な余裕もありましたし、何より東京同窓会の役員、会員の皆様が温かく接してくれたおかげで、行事や会合などにも積極的に参加させて頂きました。

そんな私も、一昨年に結婚、昨年に第一子誕生を経験、生活が一変しました。ここ2年ほどは、仕事と家庭との両立で余裕を失い、同窓会活動から遠ざかっておりました。

今回、久しぶりに東京同窓会総会に参加させて頂きましたが、私にとって新鮮でありました。以前よりも同年代の参加者も増え、活気があったように思いました。おかげで懇親会では会話も弾み、お酒も進み、楽しいひと時を過ごすことができました。

今回、秋高東京同窓会の居心地の良さを再認識させて頂きました。やんごとなき事情により、私のように同窓会活動から一時的に離れてしまった方も多くいらっしゃると思います。最初の一步は勇気がいりますが、実際参加してみると「楽しかったな」と思えるはずですよ。この機会に是非ご検討いただけましたら幸いです。皆様、引き続きよろしくお願い申し上げます。

佐藤 哲也 S49卒

仕事の関係で長らく遠ざかっていた秋高東京同窓会に、久しぶりに参加いたしました。

参加者の中には、今年4月に母校の校長に就任した同期の伊藤成年君の姿もありました。

思えば、私のこの会との関わりは20余年にもなります。平成元年、私は東京で会社を立ち上げ、それから数年後会社も軌道に乗り始めた頃、偶然この会の存在を知り参加したのが始まりです。

当時は故朝倉様が会長で、案内状から名簿作成に至るまですべて会長自ら手書きで行っておられたことを懐かしく思い出します。会の参加者はほとんどが大先輩達で、最年少でも私より10年歳上という状況でした。そのような中、私は若いというだけで幹事にさせられてしまいましたが、おかげでケヤキ会創立など様々な活動に参加できたことも、また懐かしい思い出です。

その後若い人たちも幹事として参加するようになり、総会以外にも賀詞交歓会、現役大学生との交流会など様々な企画を打ち出すようになったことは、東京同窓会発展の一大転機であったと思います。

そのような変革の時、私は仕事上の理由で会への参加が困難になりましたが、今回久しぶりに参加し、伊藤君と再会したことは大収穫でした。それと共に老若男女、和服姿からスーツ姿までの様々な先輩後輩の集まりを目の当たりにし、この会が以前にもましてより活発になってきていることを実感しました。今後も若い人たちの活躍で、秋高東京同窓会のますますの発展を願っております。

声

東京矢留会発足の思い出

神崎 泰雄 S25卒

昭和30年代初頭の東京、第一回大会準優勝の荣誉を持つ母校を優勝校にすべきと秋田中学(現秋田高校)OBが母校野球部支援のため集まった。伊藤勝三(大正14年秋田中学卒業、慶応大学、戦前プロ野球大東京監督)三和銀行西野忠雄(大正12年卒)、初代通産省原子力局長だった佐々木義武、同期の関・太宰先輩などに交じって若手として小生より一年上の本間・工藤両先輩に同期の真崎、竹内を加えおよそ10名で初会合が神田の一杯飲み屋赤津加で開かれた。

会合名を東京矢留クラブではなく、東京矢留会にしろと言われたのが佐宗金太郎先輩。佐宗先輩は野球部ではなく全国制覇を遂げた剣道部OB、剣道に熱心だったため留年が多く、同期生が三年にわたるといふ経歴の持ち主。「マッカーサー指令により剣道部は活動が制限されており、我が後輩は全国大会もない。自分は剣道部故野球部OBの矢留クラブには入れぬが、秋田中学を支援する気持ちはみんなと変わらない。俺を入れるためにも東京矢留クラブではなく、東京矢留会にしろ」と提案、全員の賛同を得て東京矢留会となった。佐宗先輩のおかげで現在ラグビー部OBの参加を得られ、また憧れのアゲマキOBも参加したこともあった。

会の目的は、「秋田高校野球部の全国制覇への支援」会のリーダーである西野先輩は三和銀行秋田支店長時代、秋田におられた伊藤先輩ともども当時現役だった我々の指導に当たってこられた経験があった。野球部OBは矢留クラブ会員として野球部支援をしてきたが、伝統校だけにOBの数も多く一本にまとまりにくいこともあったようだ。それだけに東京のOBが集まって秋田に物申すとなっては反論もあろう、東京は秋田のOB達の意向に沿っての活動にしようということも、矢留クラブではなく東京矢留会とした背景があったようだ。

バットを10本タマザワで作らせて送ったのが記憶に残っている。今でも甲子園出場がかなえば東京からも応援に行きたいと思っているが、10年過ぎてもチャンスがないのは寂しい限り。

● 追悼

秋田高校東京同窓会 監査役
故 横山樹静君へ

西山 恪朗 S30卒

人間愛と故郷愛に燃えた美しき男、秋田・中仙町(長野高瀬)に生まれし樹静君は、8月8日永眠した。謹んで哀悼の意を表します。

大変話し好きでお酒を飲む時の楽しそうな顔は、今でも忘れられない。小生の北軽井沢山荘に横山夫妻を招いて四人で懇談する事が何度かあった。横山君の父の事に話が及んだ時、父は職場の職員を遠くに避難させて自ら消火に勤めて殉職した旨の話を聞かされました。その父の姿に今も尊敬の念を持ち父の勇敢な行為に誇りを持って自信に満ちた顔で話された事を今でも忘れられません。父の死後長男の彼は兄弟、母を労わり生きてきた人格が横山君を築いたものと考えます。

彼は、ふるさと会、同窓会、懇話会等に会のために精一杯尽力した。H13年ワールドゲーム首都圏支援のための開会ツアー、中仙ドンパン祭り、中仙公式訪問。わか杉国体時連合会、同窓会、懇話会をまとめポスター・チラシ・コンサートの広報活動を展開し開会式150人参加に貢献。

H23は秋田高校同窓会有志の秋田旅行を計画し橋本五郎文庫・八郎潟干拓博物館、秋田高校、羽城館、北鹿ハリストス正教会福音聖堂見学。秋田を応援する文化の会の大穂耕一郎氏を激励し旅の成果を終えた。

もう少し生きていてほしかった。せめて『国文祭秋田2014年』が終わるまで。空しいよ。合掌。



● 同期会だより

昭和42年卒 東京同期会

畑山 康幸 S42卒

10月25日、昭和42年卒の東京同期会が同期生ら21人が参加して開かれた。

第1部は文京シビックセンターでの東京大学理学系牧島一夫教授(写真前列中央 川口公作さんの義弟)による「ロケットで大気圏外に出ると何が見えるか」という宇宙の謎についての講演会。宇宙に「端っこ」はあるか、という疑問を「文科系」の理数オンチにもわかるように見事に解説し一同感心。また日本の宇宙開発の現状にもふれ、ペンシルロケットなど秋田にちなんだ話題も登場するなど、とても興味深いものになった。

第2部は会場を近くのホテルに移し、飲み放題つきバイキングランチの懇親会。参加者の多

くが会社を退職し、高齢者の仲間入りしたわりにはワイワイ・ガヤガヤと飲み続けるいつまでも若い仲間たちだ。近況報告もまじえた2時間の会はあっという間に終了。

恒例の「ノーマル賞」は毎月酌会を企画してくれた大野省治さんに授与された。

今年の同期会にはあこがれの秋田北高出身の元(?)マドンナたちも参加し花を添えてくれた。

同期会は校歌、校友会歌の斉唱で終わったが、卒業50年にあたる3年後にむけて記念誌を刊行したいとの声も出るなど、「汝何のためにそこにありや」の教を胸に、昭和42年卒はますます元気はつらつだ。



● ご報告

1) 国民文化祭 in 秋田 に参加して

大野 省治 S42卒

平成26年10月4日(土)、秋田県立武道館を会場として第29回国民文化祭・あきた2014開会式・オープニングフェスティバルが開催されました。

当日は、東京から秋田県人会、秋高連の会員約250名が参加、秋田高校東京同窓会からも橋本会長、鎌田幹事長、西木正明さん(国文祭総合プロデューサー)他10名が参加し開会式を盛り上げました。

開会式・オープニングフェスティバルは、
14:30～ プロローグ組曲「秋田の歌」(秋田草刈唄、浜辺の歌、秋田大黒舞、秋田酒屋唄)
15:00～ 開会式典(主催者挨拶、皇太子殿下おことば、開会宣言)
15:25～ オープニングフェスティバル(なまはげと秋田美人、根子番衆と現代の音楽、秋田の先人たち、大いなる秋田)
16:25～ エピローグと進められました。

どれも、秋田の文化・風土・伝統芸能を表現したもので、歌・踊り・演奏等十分に満足させるものでした。

▼ オープニングフェスティバル (さがけonTheWebより)



終了後、東京からの参加者は彌高会館で懇親会を開催し大いに親睦を深めました。

▼ 彌高会館での懇親会の様子



国民文化祭は11月3日(月・祝)まで、秋田全25市町村で、日々の暮らしの中で生まれ育まれてきた芸能や生活文化に加え、音楽、演劇、舞踊・舞踏、文芸、美術、アートプロジェクトなど現代人が忘れかけていた豊かさに気づかせてくれる110の事業(分野別フェスティバル)が開催されました。

11月3日に、広小路、秋田県民会館でフィナーレイベント・閉会式が行われ、国民文化祭・あきた2014は終了となりました。

▼ フィナーレイベント (国民文化祭あきた2014公式サイトより)



2) 支部交流会に参加して

大野 省治 S42卒

10月5日(日)18:00～ 秋田ビューホテルに於いて秋田高校同窓会全国支部交流会が開催されました。

全国支部交流会は初めての企画ですが、今回「第29回国民文化祭・あきた2014」開会式に合わせ集まろうという呼びかけから開催が決まったものです。

参加者は、本部から町田睿会長以下24名、近畿支部から鈴木信支部長、仙台から新田目倅造支部長、東京同窓会からは、鎌田進幹事長、村山公士、二木猛、大本香津子、熊谷光太郎、高橋伸、百瀬和、大野省治（以上8名）、他に灯友会、北都銀行支部等10支部から26名、合計60名が参加しました。

会は、町田睿会長挨拶、伊藤成年校長(S49卒)からの現況説明、近畿支部、仙台支部、東京同窓会からの活動報告、乾杯、懇親会と続きました。

昭和20年卒業～平成20年卒業まで(86歳～24歳まで)の幅広い交流会でしたが、和気あいあい大いに懇親を深めることが出来ました。

今後も、本部、各支部との交流を盛んにし、東京同窓会の活動を活発にしたいと決意を新たにしました。



● 支部だより

札幌支部からお便りいたします。当支部が結成されたのは昭和54(1979)年です。当時、道内在住の同窓生150名程度を確認できたそうですが、結成総会の出席者は来賓を加えて75名でした。初代会長には河田啓一郎氏(S20卒)が選出されました。

支部設立時、「北海道支部」と命名しなかったのは、設立に関わったメンバーの遠慮があったからとのことです。しかし「北海道支部」設立は、今日でもなお札幌支部の念願の1つです。

現在の会員数は187名で、女性会員は30名です。今年の総会・懇親会は、10月25日(開催日は毎年10月のこの時期)に、来賓3名(同窓会副会長、校長、事務局長)と会員21名が出席して、和やかな雰囲気の中で開催されました。女性の出席者は、松浦澄子さんと梅田智里さんの2名です。お二人の周りには自然に話の輪が広がり、懇親会が一層盛り上がったことはご想像の通りです。



気になるのが、年長の会員の足が総会から遠のいていることです。加えて、この1年間で第2代支部長の佐々木郁夫氏(S20卒)を含む4名の方々が他界されました。

年長会員の再帰が困難であるならば、支部の活性化のためには若い世代の会員に期待するものも1つの考え方です。彼らの関心を引きつける方策を練り始めているところです。

北海道社会の特徴として「開放性と包容力」が挙げられますが、札幌支部にもまさにそれが当てはまります。

秋田高校同窓会 札幌支部より

札幌支部長 筑和 正格 S40卒

新来者を快く受け入れ、卒業年の分け隔てなく、いつも自由闊達な意見交換ができる雰囲気があるのです。秋田高校で育まれた「リベラリズム」の素養が「北の大地」北海道で伸び伸びと開花しているかのようです。

最後に、札幌支部の会員一同は、母校が「文・武」の世界で目覚ましい活躍することを願っており、秋田からもたらされる母校のニュースにいつも聞き耳を立てていることをお伝えいたします。札幌支部会員も、東京同窓会の皆様に負けないほど強い母校愛を抱いているのです。



● 平成26年度／会費納入者一覧

平成26年4月1日～平成26年10月31日 現在

昭和11年 小田部 精一	昭和27年 高橋 恒雄	昭和32年 男鹿谷 和美	昭和36年 森川 毅	昭和39年 山下 恵司	昭和42年 宮腰 亮	昭和47年 工藤 敏夫	昭和54年 目黒 典良	平成09年 神谷 了
昭和12年 浦川 則男	昭和27年 三矢 康三	昭和32年 栗林 弘	昭和36年 渡邊 東	昭和40年 岡本 宣子	昭和42年 吉村 和就	昭和47年 佐々木 誠一	昭和55年 有路 直樹	平成11年 佐々木 孝広
昭和16年 橋本 彰夫	昭和28年 小松 養一	昭和32年 栗原 洋子	昭和37年 伊藤 清信	昭和40年 加藤 弘次	昭和43年 石川 正幸	昭和47年 柴田 紀彦	昭和56年 西 大和	平成16年 須田 敏彬
昭和17年 園部 俊雄	昭和28年 瀬下 鉄五郎	昭和32年 戸嶋 成忠	昭和37年 小松 翼男	昭和40年 鎌田 政朋	昭和43年 市村 道子	昭和47年 中谷 多佳子	昭和56年 百瀬 和秀	平成18年 畠山 研二
昭和20年 大友 英一	昭和29年 武藤 實	昭和33年 今野 昭	昭和37年 長原 碩之	昭和40年 熊谷 豊	昭和43年 小柳 幸夫	昭和47年 三澤 英一郎	昭和57年 佐々木 正則	平成19年 水野 千夏
昭和20年 小玉 保次	昭和30年 秋山 文平	昭和33年 大平 温	昭和37年 渡部 宏	昭和40年 佐々木 透	昭和43年 神坂 清光	昭和47年 石川 俊明	昭和57年 藤谷 正則	
昭和20年 田添 達夫	昭和30年 大塚 正民	昭和33年 熊谷 光太郎	昭和37年 伊藤 博康	昭和40年 佐藤 三郎	昭和43年 菅野 庄一	昭和47年 大橋 朗	昭和57年 藤谷 正則	
昭和21年 那小屋 豊	昭和30年 佐藤 敬幸	昭和33年 矢吹 紀隆	昭和37年 加賀谷 久	昭和40年 中西 祥子	昭和43年 佐々木 博和	昭和47年 齊藤 純一	昭和58年 青山 卯女	
昭和22年 加藤 三朋	昭和30年 薄田 耕二	昭和33年 岩崎 牧子	昭和37年 佐々木 博章	昭和40年 橋本 五郎	昭和43年 佐藤 元英	昭和47年 東海林 豊	昭和58年 工藤 宏	
昭和22年 金沢 祐吉	昭和30年 高橋 捷郎	昭和33年 佐藤 宏二	昭和37年 武田 義之	昭和40年 山田 幸一郎	昭和43年 佐藤 真美	昭和47年 石田 哲也	昭和58年 青井 謙二	
昭和23年 明石 康	昭和30年 高橋 秋男	昭和33年 佐藤 紀英	昭和37年 山方 邦雄	昭和40年 加藤 貢	昭和43年 高田 眞美	昭和47年 佐藤 好伸	昭和58年 菅原 徹	
昭和23年 上野 寛治	昭和30年 船木 孝雄	昭和33年 高橋 恒松	昭和37年 山本 均	昭和40年 佐藤 茂範	昭和43年 寺邑 陽子	昭和47年 高橋 宏	昭和58年 伊保谷 健一	
昭和23年 星野 恒雄	昭和30年 松沢 研二	昭和33年 西木 正明	昭和37年 湯澤 邦彦	昭和40年 佐藤 彰	昭和43年 富樫 泰章	昭和47年 高橋 英昌	昭和58年 伊保谷 健一	
昭和25年 荒井 献	昭和31年 相模 謙三	昭和33年 武藤 良孝	昭和37年 伊藤 博道	昭和40年 成田 憲明	昭和43年 豊田 吉男	昭和47年 高橋 利一	昭和58年 菅原 真生	
昭和25年 菊池 雄	昭和31年 伊勢 諒吾	昭和33年 山田 忠一	昭和37年 伊藤 健	昭和40年 堀内 一志	昭和43年 橋本 公生	昭和47年 山口 武秀	昭和58年 渡辺 直子	
昭和25年 中嶋 致和	昭和31年 柿崎 正	昭和33年 小泉 紀男	昭和37年 大澤 健	昭和40年 緑川 稔秀	昭和43年 伊藤 秀悦	昭和47年 大嶋 仁	昭和58年 佐藤 映	
昭和26年 五十嵐 泰弘	昭和31年 小林 宏	昭和33年 野口 洋	昭和37年 葛西 信夫	昭和40年 石井 都太郎	昭和43年 老松 秀明	昭和47年 今野 多賀子	昭和58年 中嶋 京一	
昭和26年 伊藤 陸	昭和31年 佐々木 行	昭和33年 伊藤 征司	昭和37年 倉泉 信夫	昭和40年 大野 省治	昭和43年 大橋 由起子	昭和47年 清野 正剛	昭和58年 西尾 薫	
昭和26年 小熊 蔵	昭和31年 佐藤 公隆	昭和33年 伊藤 則昭	昭和37年 佐々木 偉義	昭和40年 大森 正高	昭和43年 尾形 均	昭和47年 伊藤 博基	昭和58年 齊藤 芳人	
昭和26年 佐々木 清水	昭和31年 高橋 壽夫	昭和33年 伊藤 征彦	昭和37年 佐藤 春信	昭和40年 奥村 茂	昭和43年 東海林 和彦	昭和47年 鈴木 久彰	昭和58年 佐々木 広人	
昭和26年 戸澤 弘明	昭和31年 高橋 文夫	昭和33年 佐々木 毅	昭和37年 佐藤 眞理子	昭和40年 工藤 潤一	昭和43年 武田 好史	昭和47年 松尾 元	昭和58年 佐々木 健太郎	
昭和26年 石波 直司	昭和31年 寺山 誠行	昭和33年 須原 勉	昭和37年 鈴木 理輔	昭和40年 清水 光雄	昭和43年 佐々木 孝子	昭和47年 遠藤 勇人	昭和58年 佐藤 大助	
昭和27年 石山 喜章	昭和31年 中川 信夫	昭和33年 須原 勉	昭和37年 高橋 理輔	昭和40年 田村 信次	昭和43年 藤川 裕一	昭和47年 佐々木 猛	昭和58年 佐藤 英司	
昭和27年 岩井 健一	昭和31年 中村 啓一	昭和33年 成田 洋次郎	昭和37年 高村 國男	昭和40年 千葉 徹	昭和43年 前川 長敏	昭和47年 小柳 宏	昭和58年 小笠原 淳	
昭和27年 加藤 明男	昭和31年 林 博	昭和33年 成田 武之	昭和37年 原田 幸雄	昭和40年 長谷川 猛	昭和43年 加賀谷 仁史	昭和47年 斎藤 康幸	昭和58年 柳澤 孝幸	
昭和27年 佐々木 長雄	昭和31年 原田 善治	昭和33年 船木 茂	昭和37年 二木 猛子	昭和40年 畑山 康幸	昭和43年 鎌田 進	昭和47年 佐藤 克有		
昭和27年 栗石 衛夫	昭和31年 渡邊 徹	昭和33年 村山 公士	昭和37年 安田 猛子	昭和40年 原田 賢作				

● 会費納入のお願い

本会の運営は、会員の皆さんからの会費によって支えられております。毎年度の会費の納入をよろしくお願い致します。このページには本年度の会費納入者を掲載しております。会費が未納の方は、本会報同封の郵便振込用紙にて、年会費3,000円のお振込みをお願い致します。今年度会費納付済み方に重複して振込用紙が同封されている場合は、申し訳ありませんが、破棄してください。郵便局の口座番号は次のとおりです。

00150-0-353596
「秋田高校東京同窓会」

● 同窓会本部事務局だより

本部事務局長 佐藤 英明 S46卒

6月15日に今年度通常総会が開催されました。225名と、ここ数年では、最も多い参加人数でした。

総会では、一部会則・規程の改定、140周年記念事業として創設された教育振興資金運用規程の創設、会務報告・事業報告、決算、および今年度事業計画・予算など、原案通り承認されました。

また、役員改選では、豊田祐一会長、藤盛節子副会長、高橋正毅監事が退任し、町田春氏(昭和31年卒)が新会長に、監事には佐藤隆夫氏(昭和50年卒)が選出されました。

引き続きの記念講演は、東京同窓会でお馴染みのお笑い芸人宮田陽・昇の「陽」こと齊藤敬氏(昭和60年卒)が「寄席芸人の生態」という演題で約一時間にわたり、業界の裏話など楽しいお話がなされました。(講演については、11月25日発行予定の同窓会だより96号に要旨を掲載します)

講演後は、大懇親会が行われました。町田会長の挨拶のあと、昭和14年卒の今年で94歳になられるという内藤賢一氏の乾杯から始まり、卒業年次毎にまとまったテーブルで大いに話が盛り上がり、アルコールも進んだようでした。なお、来年度総会は、6月21日(日)午後2時から秋田ビューホテルです。

また、10月5日には、東京同窓会から発議のあった第29回国民文化祭・あきた2014記念・全国支部交流会を開催しました。東京同窓会はもちろんのこと、近畿、仙台など12の支部からの参加者と本部役員合わせて60名で支部活性化の方策についての情報交換がなされ、有意義な会でした。

● 幹事長だより

東京同窓会幹事長 鎌田 進 S47卒

今年も色々ありました。春先には「小保方晴子さん」のSTAP細胞で明るいニュースが出て大いに盛り上がり、それが急激に色あせてしまったところ広島での土石流の悲惨なニュースが流れ、御嶽山が突然噴火して56人もの登山者が死亡しました。台風も毎週末に日本を通過するほど次から次と来て緊張を強いられることが多かったように思います。

そんな中でも田中将大投手が大リーグに行き、富岡製糸場が世界文化遺産になり、青色LEDの開発で3人がノーベル賞を受賞するなど明るい話題もありました。

我が秋田では国民文化祭が10月4日から開催され我々東京同窓会からも多くの方が出席しました。皇太子殿下をお迎えしての盛大な開会式には大きな勇気をもらいました。秋田の大いなるPRになったと思います。

賀詞交歓会はその秋田から「あきた舞妓」を立ち上げた「水野千夏さん」(H19卒)をお迎えしてあきた舞妓の現況をたっぷりお話しして頂きます。多くの方のご参加をお願いします。